



七尾中学校 学校だより 七尾の丘

Seven tails Story 七つの尾の物語を創り上げよう！



マスコット“七王” (ななおう)

第12号

令和7年3月24日

廿日市市平良二丁目2-34

TEL:0829-32-8200

3年生127名が七尾中学校を巣立ちました

3月7日（金）、令和6年度卒業証書授与式を挙行了しました。今年度はコロナ禍以降はじめて、全校生徒が出席しての卒業式を実現することができました。卒業生の栄えある未来を願うばかりです。

校長式辞（抜粋）

（略）令和六年一月一日、石川県で震度七の地震が発生しました。能登半島地震です。地震発生から一年以上たった現在でも、約三百人の方が仮設住宅での生活を余儀なくされ、被災地には倒壊した家屋が残されている状態です。地震発生後、避難所では地元の中学生在が自分たちも被災者でありながら、避難所の運営を手助けするなどボランティアとして活躍しました。その中の一人にKHさんという、皆さんと同級生の仲間がいました。KHさんの祖父は輪島塗の工房を営んでおられましたが、地震で工房は全壊、翼音さんは地震後、祖父の仕事を手助けするかたわら、友人と避難所でボランティアとして活躍してくれたのです。この経験を通して、彼女の中に、将来は能登で働き、能登を支えていきたいという思いが強くなっていました。そんな中、KHさんに再び悲劇が襲います。令和六年九月二一日、能登半島で記録的な豪雨が発生し、KHさんの自宅近くの川が氾濫し、土石流が自宅を襲ったのです。その日、翼音さんの家族は全員外出し、自宅に残っていたのはKHさんだけでした。土石流が自宅を襲った直後、KHさんは家族とラインでやり取りをしています。「家の前が海のようにになっている」「ドアが開かない」「逃げる場所がない」と、お父さんも「長袖、長ズボンを着て、二階におれ」と彼女を励まします。その後、連絡は途絶え自宅は土石流に飲み込まれました。家族の願いむなしく、翼音さんの遺体は、土石流発生から九日後に発見されます。KHさんのお父さんは「長袖長ズボンを娘が着てくれていた、いつもは言うことを聞いてくれない時があったけど、ちゃんと言うことを聞いてくれていた、お帰りといってあげたい」とおっしゃっています。KHさんが最後に着ていた長袖と長ズボンはお父さんがプレゼントした服だったそうです。

私はこの事実を知った時、一人の親として、中学生にかかわる教師として涙がこみ上げてきました。なんとつらく、なんと厳しい現実なのかと。しかし、私は思うのです。このつらく厳しく現実の中に、光を見出すしかないのではないかと。それが、生かされているものの使命ではないかと。KHさんとご家族が私たちに教えてくれた、家族の絆、親子の愛、最後まで生きることをあきらめない勇気を私たちは継承すべきだと思うのです。

皆さんがこれから歩いていく道のりは決して平たんではないでしょう。時には想像を絶する悲劇に直面するかもしれません。しかし、忘れないでほしい。仲間と団結した体育大会の頑張りを、本気でステージに立った合唱コンクールを、毎日取り組んだ縦割り清掃を。そして、それを見守ってくれていた親の愛を素直に受け止めてほしいのです。仲間とのつながり、家族とのつながり、その「つながり」こそ、困難を乗り越える唯一のエネルギーなのです。皆さんが七尾中学校で刻んだ学びの軌跡とは人との信頼関係、「つながり」を作る力なのです。そして、自然災害が頻発する我が国において、社会の分断をあおる人間が大手を振って歩く時代の渦中であって、本当の危機に直面した時に、最後に頼りになるのは人との「つながり」なのです。信頼なのです。七尾中学校で培った「感考行」の精神は人とのつながりを深め、最後まであきらめない勇気を皆さんに必ず与えてくれます。皆さんならどんな危機も乗り越えられます。胸を張って七尾中学校を卒業してください。皆さんの栄えある未来を祈念しています。（略）

自己表現ってどうなの？



3年生が巣立ち、2年生が最上級生となりました。最上級生は体育大会や文化祭でリーダーシップを発揮して学校を自分色に染めることができます。それは最上級生の特権で最も楽しい時間とも言えます。一方で受験という現実に向かかっていかななくてはならないのも最上級です。そこで、先輩たちはどんな気持ちで受験に向かったのか？とりわけ自己表現はどんなものだったのか？インタビューしましたのでお読みください。

3-1 YM

入試会場で自己表現を行ったとき、つま先からわきあがるような緊張感がありました。私は、自分の将来の「希望」や自分自身の「強み」を表現しました。日ごろから相手に伝える能力を鍛えてきたので良かったと思いました。自己採点はAです。

3-2 OR・MA

緊張したけど結構楽しかった。声が震えたけど試験官が優しくだったので助けられました。自分の将来の夢（保育士・看護師）を実現するために頑張っていることをアピールしました。自己採点はSです。全力を出しました。

3-3 KT

自己表現ではめちゃくちゃ緊張しました。寒さと緊張で足が震えました。自己表現の内容は自分の将来の夢について発表しましたが、試験官の反応は普通でした。自己評価するなら自分はBです。

3-4 MS

緊張して足が震えました。私は中学校で頑張ったこと。部活動を通して学んだことを表現し、将来の夢（体育教師）を実現するために必要な力をアピールしました。自己評価するならAです。がんばりました。

さて、先輩のインタビューを読んでどう思われましたか？自己表現には自分を振り返り、自分自身を客観的に評価する力が必要なようです。自分なら自分をどう表現するか。1年間を通して考えましょう。

トピックス

来年度からデジタル生活ノートを導入します

来年度からデジタル生活ノートを導入します。導入の目的は生徒自身が心や体の健康状態を記録し、自らの生活リズムを振り返ること。生活の記録や教科連絡をよりスムーズにすることです。春休みから試験運用しますのでご理解ください。

いちご大福ありがとう！！

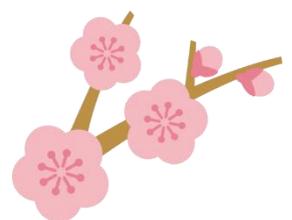
2年生が調理実習で「いちご大福」つくってくれました。私（校長）もご相伴にあずかりました。ほどよい甘さでおいしかったです。2年生のみんなありがとう。



教職員の異動について

校長	岡本 純一郎		在籍3年	廿日市市立宮島中学校へ
教諭	木村 拓磨	社会科	在籍1年	山口県下関市立勝山中学校へ
教諭	原田 優次	理科	在籍5年	廿日市市立大野東中学校へ
教諭	宮原 央	理科	在籍3年	坂町立坂中学校へ
教諭	戸川 雅子	英語科	在籍4年	廿日市市立四季が丘中学校へ

(令和7年3月24日 判明分)



今年度の人事異動により、本校から5名の教職員が去ることとなりました。なお、離任式は3月25日（火）に行います。時間等については、配布したプリント等でお確かめください。